

建築士会津久見支部 第三回 研修の旅：門司港街並みと飯塚の炭鉱王の日本建築物

令和6年11月16日～17日 投稿者:はまさん

朝9時、空は曇っちょん。参加者9名は2台の車に分かれ発車。

門司港-若松宿泊-飯塚のルートで出発。

私はワゴン車の後部席で、流れる昭和の音楽と車窓からの景色見ながら、楽ちんじゃー。

日頃は運転手ですが、今回は感謝・感謝の客席じゃー。(代行のため運転免許証持参)

出発から約2時間40分で門司港に到着。

空は明るい曇りでまずまずだ。しかしトラブルだ!

この日、門司港イベント開催で予定していたパーキングが満車だ。

くるくる一周して別のパーキングに駐車。

ここは門司港レトロのど真ん中だった。

昼食は港沿岸の海峡プラザで

名物門司港発祥の「焼きカレー」を実食。

中辛風でチーズと半熟たまごがライスの上に鎮座。

こらゃあ「うめーのう」「そげーでんねーか」微妙な味じゃったが、土産で、よ-けこうた。

食事終了で門司港駅舎へ移動。改修工事も終わって綺麗な外観じゃのう。

当然、記念写真で三脚をセット、タイマーセットでバッチリ撮影。

この記念撮影の光景もレトロな街では違和感ないかもと思いきや、周囲の人はスマホ撮影だ。



門司港駅舎周辺も綺麗に整備されているなか、取り残された古いビルが景観とマッチしなくなり、今後の対策がどげえーなるんかのう。

次に訪ねたのは、九州鉄道記念館。門司港駅から西へ、トロッコ鉄道を渡るとそこにSL車両から寝台車輛、



特急など昭和を走ってきた汽車が機関庫にずらりと整列。(スゲーのう)

幼児から学生までSL機関車を利用していた頃を思い出し、トンネル入る前に窓を閉める事や、寝台車で修学旅行の時眠れなかった事、椅子の下の暖房でやけどした事、線路沿に住んで居たので汽車の通過は、時計代わりで、朝起きの目覚まし変わりだった。～色々と思い出し、結論は「年とったのう」

隣接の2階建のレンガ造りの資料館には木造車両が展示してた。サイズは小さく、工夫された造りでした。



再び食事した海峡フラザに戻りショッピング。店内は通路が狭く、各店舗ごとに会計のシステムだ。

レトロなのか当時の商店街なのか通路が非常に狭い、客がいっぱい。(私も含めて)

アイスを手手にレトロな建物と関門海峡、港から見えるに風景に一息つき、埠頭へ進んだ。

対岸の下関市街地と関門海峡大橋が少し霞んでいたが絶景、そこで再び三脚をセットして記念撮影。

他の観光客が遠慮して撮影まで待ちよってくれたが、迷惑行為したんじゃないかな。



はね橋(ブルーウィング)を渡り、門司港レトロエリアに戻った。

門司港は貿易商社など洋風建築物が立ち並んでいる街、近代建築物とのマッチした街づくりが成功したのか、観光客殺到。ヘリポートがある展望ビル(店舗、住居高層ビル)は高層でガラス張りの外観です。少し違和感を思えた。(評論家のコメント風)

会員ガイドさんの案内で、その展望タワーへ案内。保存建築物は外観見学で内観はお預けでした。



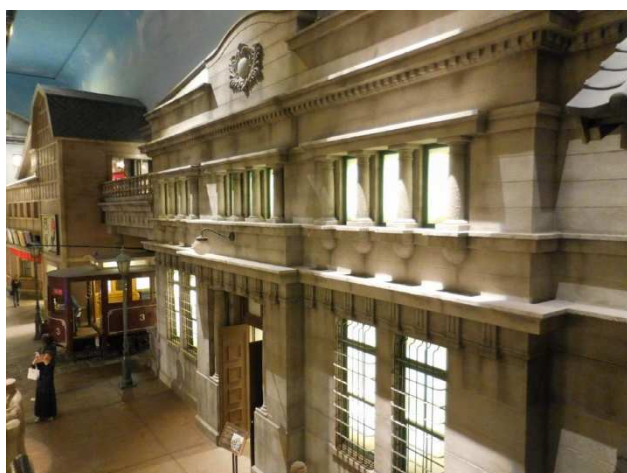
このビルは黒川紀章氏の設計によるものでした。EVで31階、高さ103メートルの展望室へ。(有料)

ここからは、門司海峡を一望でき、港にはホテル、ショッピングエリアも出来、眼下に新門司港。

日没には小倉の工場の町に沈む夕日と夜は門司と下関の夜景が一望できる展望台は寄ったらえーよ。



門司最後の見学先は少し離れている関門海峡ミュージアムだ。到着すると残念ながら建物改修中。円形上のガラス張りの外観は足場で見れなかった。パンフレットでの確認しながら隣接する海峡レトロ通りの施設に入り大正時代にタイムスリップ。TVでしか見たことのない2階建の建物が並ぶ街の風景。当手を思い出せん！私は昭和の人間。懐かしいではなく「へー、こんなんやったんか」とつぶやく。空には、照明設備がズラリ並び違和感あり。施設は前回来た時、工事中だったのを思い出した。夕刻になり、ホテルへ向かう。今日の万歩数は約9,000以上だ。



車は北へ、北九州若松区だ。ホテルはシンボルの赤色の若戸大橋を望める場所にあった。新日本三大夜景の北九州の中に位置する。部屋は5階で廊下を挟み山側と河川側に用意されていた。私の部屋は山側で、裏の駐車場と町の外灯が見えた。ライトアップした若戸大橋と工場の夜景は見えん。夕食まで少し時間があり、散策した人もいたようだ。



今日の懇親会は、食べ放題飲み放題の焼き肉屋。(幹事さんにお礼) お店へは、なぜか遠回りして到着。懇親会での会話は、個人情報満載。なので、お話はカット。(うまかったよ)



次の日は朝 9 時ホテル出発。私の部屋から見えた高台の高塔山公園から街並みを一望できる場所へ行く予定が、キャンセルとなり飯塚へ向かうことになった。

出発から 80 分で目的地の旧伊藤伝衛門邸（国指定重要文化財建築物、国指定名勝庭園）へ到着。



筑豊の炭鉱王・伊藤伝衛門の本邸として、明治後期から昭和初期にかけて増改築を重ねられていた。敷地面積 約 2,300 坪、建物は 2 階建 延べ床面積約 300 坪の近代和風住宅。

大きな門は大名屋敷風。受付を済ませる記念写真の撮影ならこちらへと係員の方が案内してくれたが、そこは住居部分の庭（庭園入口）国指定庭園なのになんでここ？。

看板は無し、他に場所は無いんかえ。周りを見るとトイレだ。アサギマダラの飛来する花も枯れちよる。

係員さんがカメラマンなので作り笑いでパシャリと撮影。（おおきに）たぶん古民家前の写真に見える。



撮影が済み建物内部へとお邪魔した。

建物は玄関のある住居棟と庭園に面する客室棟に分かれている部屋の配置となっていた。玄関を上がると左手に応接間があり暖炉と板壁が印象的で、天井が高く洋館風の内装になっていた。（入室禁止になっていた）この部屋以外は、ほぼ和風建築です。

まず気づいたのは、鴨居の高さ。従来なら 5 尺 7 寸（約 173cm）だが、6 尺 2 寸（約 187cm）程度の高さと感じた（実測していません）外国人の方に合わせた寸法なのかと思う。

玄関上がって右へ行くと住居棟で子供室を横目に庭を見るとさっきの撮影場所だ。中之間、角之間を通り客間棟へ。

座敷、中庭を見ながら長い廊下を進み 2 階へ。回り階段を上ると 2 間続きの部屋で、窓から庭園が一望。（絶景）



部屋は大工さんの遊び心が見える天井細工など、時代を感じる造作がされていた。

1階へ降り水回りを拝見。風呂には当時の水栓蛇口と平成の蛇口があり、不思議に思った。

すると、ここに小説家、天台宗の尼僧：瀬戸内 寂聴さんが住まわれていたそうです。

別棟に寂聴さんの資料館やお土産店もありました。

次は客室棟の縁側付き本座敷へ。縁側からガラス障子の向こうに広がる庭園がすばらしい景色。

座敷の床の間はあじろ天井で竹細工されており見た事のない柄模様。

隅々まで目にしない和風、数寄屋造り、廻り縁と広々した屋敷です。(広すぎ)



束立ての縁など風雨にさらされている部位に著しい腐食、シロアリなどで無く保存されていました。

しかし思うのですが、飯塚の冬でガラス戸や襖と障子に仕切られている建具は隙間だらけ(24h自然換気)

先代の人たちは、わずかな暖房で暮らしていたと思うと、今が有り難いですね。

玄関を降り、庭園を散策。水の無い池と、あずま屋を中心にした庭園が造られていた。

庭から眺める建物も風情ある造りで、エエなー。

庭師の方が手入れをしていましたが、こんなに広いと切りが無く一年中作業。

貴重な文化財を見学させてもらいました。係員に聞くと屋根の老朽化で保存が大変そうです。



昼食を済ませて、最後の見学地の甘木歴史資料館へ向かった。(そこは、見学無料だったので)

まだまだ知らない文化財建造物が各地にありそうです。

研修の旅は続きそうです。(次回は九州脱出か？ 全国大会の大阪なのか?)

-- 完 --